

根羽村教育大綱

根基

根羽村には「根基（やっぱり根だ。基礎がしっかりとしていかなければ、駄目なことを大杉は教えてくれる）」という藤本三郎先生が遺された言葉があります。今の時代に求められる「根」とはなんでしょうか。

根羽村総合計画では、計画全体のビジョンとして「森とともに生きる」と掲げています。わたしたちは根羽の森から豊かな恵みをいただいている一方、本来は統制できない自然の力がはたらく「森のなかでの暮らし」には、合理性や効率化ばかりの都市生活ではない、これから変化著しい社会を生き抜いていくための「学び」があります。

そしてなにより、こどもおとなも混ざり合い、自ら考え、人から学ぶ「学び合い」から、実践していく。それを繰り返し続けることから、根羽らしい「根」が育っていくと考えています。

またその計画において「学びの村づくり」をこれから村を形作る柱のひとつに据えました。村民、地域企業、行政など、村全体が一体となり、よりよい根羽村のために、保育所、義務教育学校の「子どもの学びをまんなか」に、学び合い協働していくことを目指します。

この大綱を通じて対話を重ね、村に暮らす人も村に関わる人たちも、こどもとおとなも、根羽村に関わるあまねくすべての人たちが、森とともに生きるこの根羽村で、しあわせに生きていくための礎となることを願います。

<ここで言う「学び」とは>

1985年にユネスコによる「学習権宣言」において、学習とは「人々を、なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体にかえていくものである」とあります。より良く自分らしく生き、自己と社会のウェルビーイングのために、ここ根羽村で、里山の暮らし、根羽村にある日常の中から学び続ける姿を目指しています。

子どもの学び

- ・自分の好きを見つけ、学びたいことに失敗や挫折を恐れず挑戦する。
- ・協力したり、関わり合ったりすることでお互いを認め合う。
- ・村民全員がPTA。地域の子どもは地域で育てる。
- ・新しい学びを創造し、根羽発で「中山間地域の学び」のモデルに。

おとなの学び

- ・日常の暮らしのなかに学びがある。学び続けていく。
- ・子どもの学び（育ち）を支えることから自らも学ぶ、子どもから学ぶ。
- ・協力したり、関わり合ったりすることを通じ、ありのままの存在として尊重し互いを認め合う。
- ・村に暮らすあまねくすべての人たちが、学びを通じて関係を深めていく。

学びの村づくりへ

- ・人々が主体的に学び、社会を治めていくことから村を形作っていく。
- ・村の日常と学校をつなぐ、村の中で学びを支える仕組みづくり。
- ・日常生活の中にゆたかな学びを見つけていく。
- ・ともに学び、ともに創ることから、村づくりへつなげる。